

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の自然豊かな特性を取り入れた事業所理念を作成し、掲示している。職員と共有し、ご利用者様、ご家族様が安心、安全に取り組める様、取り組みを行っています。	職員間で話し合っ決めて理念があり、自分たちで率先推進して利用者が安心して生活出来るように理念の持つ意味を十分理解して日々の支援に当たっている。新入職員に対しては入所時に理念に沿った取り組みについて周知を図り、業務に活かせるようにしている。家族に対しては利用契約時に理念の主旨を説明し、それを具体的に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する物産販売を行っているお店との交流や利用を通じて、認知症への理解や支援方法などを会話の中に盛り込みながらお話しさせて頂いたりしています。	開設以来コロナの状況が続き、思うような活動が出来ていないが、法人として区費を納め地域の一員として活動している。日々の散歩の際には近隣住民と挨拶を交わす関係も構築されている。また、大学の医学部の学生の来訪があり、介護全般にわたり利用者との時間を体験している。そうした中、現在、回覧板を回していただくように区長にお願いしており、そこから情報を得て、参加出来る行事には参加したいという意向を持っている。また、区の防災訓練と当ホームの防災訓練の際には相互に参加をして、地域の一員として活動したいという意向も持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修やカンファレンスを通じて、職員が認知症や病状についての理解を深め、ご家族様への疾病説明や精神的な負担の軽減に繋がるよう、日々のご様子や活動の報告に活かせるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、施設内での活動の御様子や今後取り組みたいことなど意見交換を行い、より地域に貢献できるように、職員間でも話し合い、より明るい施設作りを目指しています。	コロナ禍の状況が長引き書面での開催が続いていたが、昨年5月のコロナ5類への移行を受け、昨年8月より対面での運営推進会議が再開されている。家族代表、町民生児童委員会会長、出原地区区長、山吹地区区長、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が出席し、2ヶ月に1回、偶数月に開催している。利用状況、行事・活動状況などを報告後、意見交換等を行い、サービスの向上に繋げている。今後、会議参加メンバーの枠を広げ、当ホームの活動状況を知っていただいで地域に開かれ、親しまれるホームとなるように活動を続けていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	退院時カンファレンスやケアマネ会など、地域の関係機関と密接に連携をとれるよう、出来る限り積極的に参加し、信頼関係を築けるよう取り組んでいます。	役場担当部署には事故・ヒヤリハット報告等、必要に応じて連携を図っている。また、定期的に行われている地域ケア会議にはケアマネジャーが参加して、他施設・事業所との情報交換等を行い、サービスの向上に繋げている。介護認定更新調査は家族が町の福祉課に連絡して調査員が来訪し、ケアマネジャーが対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で行っている研修を始め、施設全体で日々の声掛けや介助方法の中でも、ご利用者様の活動に対して、制限のかからないように心がけています。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。ホームの建物が幹線道路に面していることから安全確保のため施錠している。帰宅願望の強い方はなく、安定した日々を送っている。そうした中、転倒・転落の危険のある方がおり、安全に生活していただけるように家族と相談の上、人感センサーを使用したり、センサーマットを使用している方がいる。新入職員に対しては入所時に身体拘束や虐待防止についての研修会を行い、不適切ケアの排除を徹底している。合わせて、月1回行う身体拘束適正化委員会の席上で各事業所の事例を上げて話し合い、拘束のない支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、法人全体で行っている研修を、全職員と定期的に取り組み、虐待行動とならないように、全職員で細心の注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方が、既にご入居されており、日々の様子の報告や相談、面会などを通じて、活用しており、同時に制度を学ぶ機会とさせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去等における契約締結については、法人本部で対応を行っているが、ご利用者様やご家族様が不安に感じる部分や不明な点については、必ず説明を行い理解して頂ける様努めています。内容についても読み合わせなど、職員と学ぶ機会を儲けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見について、事業所で留めず、本部へ相談し、即時対応や曖昧にならないように努めています。ご利用者様の様子をお伝えし、意見や要望についても反映できるよう、家族連絡は速やかに行っています。	家族の面会については、コロナ蔓延中は自粛したり、リモート面会をしていた時期があったが、コロナ5類への移行を受け、現在、人数は2名までとして、15分を目安に玄関内において面会を行っている。2週間に1回ほど面会に見えらるる家族があり、土・日・祝日には多くの家族が来訪して利用者とのひと時を過ごしている。また、利用者一人ひとりのホームでの生活の様子については、担当職員からの手書きの手紙に日々の様子や行事の際に写した写真を添えて毎月の請求書と共に届け、家族から喜ばれている。更に、誕生日や母の日、父の日などには「好きなおやつ」「花」等のプレゼントが届けられている。来年度は感染状況を見ながら家族会を開催して居室の様子も見ていただき、食事やゲーム等も行って、家族との交流の機会を持ちたいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行うミーティングの際に、意見や提言については、聴取し、中身を話し合いをしながら、反映できるように努めています。	毎週月曜日には法人全体の朝礼を行い、連絡事項、情報等の共有に努め、より良い業務や支援に繋げている。ホーム内では毎日30分ミーティングを行い、日々の業務の見直し、利用者一人ひとりの状況の把握に努めている。新入職員、特定技能実習生、技能実習生は毎日業務報告書を上長に提出し、上長がコメントして人材育成に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、労働状況の把握等を行いながら、働きやすい環境の提供・条件の整備を行いつつ、特に事業所の雰囲気作りを大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて、適時面談を行いながら、研修制度や資格取得の支援を行い、サービスの向上やモチベーションの向上出来るよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	週に一度、法人内の全事業所参加型のリモート全体会議を開催し、情報の共有や勉強会などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネさんとご本人様のアセスメントをとり、職員全体でカンファレンスを行いながら、ケアプランの作成や生活介護の方向性を共有し、ご本人様が安心できるような働きがけに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に、ご家族様へも聞き取りを行い、都度日々のご報告やご相談を密に行う中で、信頼関係を形成できるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やアセスメントを行う上で、主治医を含めた関係事業所と検討し、福祉用具の調整など即日対応できるような連携を図り、対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ介助するのではなく、本人様の意向や顔色を見て、自立支援を目指した生活介護や関りが出来るよう、職員や関係職種と情報を共有、検討し、介入できるよう努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の負担を軽減しながらも、家族様の役割ややりがいを奪ってしまわないように、心掛けています。本人様を支えるチームとして、家族様の役割にも目を向けられるよう心掛けています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や日々のご報告、共有を行う中で、今までの関係性を切れないように繋ぎ続ける役目も施設にはありますので、お手紙や電話でも支援できるよう努めています。	家族より連絡のある友人、知人、親戚の来訪がある。2名まで、15分を目安に面会していただき、利用者も歓談している。時折、多くの人数で見えられることもあるので、人数を分けて面会していただく時もある。携帯電話を持つ利用者があり、家族と連絡を取り合っている。理美容については毎月顔なじみの訪問美容師の来訪し、カットをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールや共用部分で交流を持てるような関りをレクリエーションを通じて意識しています。寝たきりの状態でも、離床介助を促し、負荷量を調整しながら、色々な活動に参加できるように、生活援助をしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、今までの関係性を生かし、困りごとなどをご連絡頂いたり、対応できるようにしております。退去時には、希望に応じて入居後の活動の写真をまとめてお渡ししております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私の姿と気持ちシート」を活用して、利用者の気持ちを理解しカンファレンスを実施し、反映している。	殆どの利用者は問い掛けに対して返事が出来る状況にあり、飲み物、食べ物、洋服選び等、幾つか提案して選んでいただくようにしている。そうした中、発語が難しく、食事も全介助の方がおり、職員は表情や素振りから希望を受け止めて、意向に沿えるようにしている。また、1対1で話をするを大切に、何か変化があるような時には速やかに対応し、気づいた事柄は経過記録と申し送りノートに纏めて、情報を共有しながら適切な支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを共有しながら、日々の関りや家族様から頂いた追加情報を元に、追加情報も、生活援助やアクティビティへ繋げらるようカンファレンス実施しております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活でなるべくメリハリがつくように、食事はホールへお連れし、アクティビティも時間帯に応じて介入しております。記録シートを活用し、状態の変化を逃さず、専門職へ共有することで、状態に応じて介入できるよう努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所カンファレンスを行い、出てきた課題に対して、家族や関係者と相談し、その人らしい支援が出来るよう、職員全体で考えている。	全職員で全利用者の状況把握に努めている。ケアマネジャーが週1回モニタリングを行い、また、全職員でのカンファレンスで意見を出し合って状況を確認している。管理者と主任が職員全員を集め午後のミーティングで全体でのモニタリングを行い、ケアマネジャーがプランの作成を行っている。入居時は家族から聞いた情報も参考に暫定プランを作成し、様子を見て、短期目標を6ヶ月としている。状態が安定している場合は長期目標を1年として作成し、その期間に合わせて見直しをしている。状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや良かったことなどは、支援記録に記載し、職員間の情報共有ができています。また申し送り時に都度報告を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の相談や疾病の時など、サービスに組み込まれていない内容に対しても、柔軟に対応できています。また、ご家族様やご利用者様が望むことなど、なるべくご希望に添えられるように対応させて頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には、桜を見に行き、公園や周囲を散歩し、近隣の住民と出会い、ご挨拶をしたり、お話をしております。今後は、地域の方を呼び、演奏会やおはぎ作りなど行っていきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日医師の回診があり、予定者になくも適切な医療を受けることができる。他の医療機関においても、情報提供についても情報提供を行い、受診が可能、看取りについてもご家族様やDr、看護さんと連携し行っている。	当ホームは医療法人の経営でもあり、利用契約時に希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、法人の医師の回診が毎日あり、1日1名ずつ、月2回の往診で対応している。合わせて法人の看護師の来訪が毎日あり、健康管理をするとともに、合わせて医師との連携が図られている。また、毎週木曜日には法人の歯科衛生士の来訪があり、口腔ケアの指導を受けている。土曜日には法人歯科医の往診もあり、口の健康にも力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の中で、医師や看護師と連携をとり、日々の状態の変化や治療について、対応しております。専門職種と連携することで、より快適で安全な生活が送れるよう努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には、他医療機関と情報のやり取りを行い、ご利用者様やご家族様が安心できるように関係を保っている。入退去時も同様に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	即時に関係者へ連絡し、医師や御家族様含めた、ムンテラを行い、今後の意向や思いを整理し、情報共有を行い、色々な方向性に対応できるように努めている。	重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明して同意書を頂いている。入浴や歩行状態が変化し、終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意向を確認した上で、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に4名の方の看取りを行い、コロナ禍ではあったが家族には居室にて最期の時を共に過ごしていただくことが出来、感謝の言葉を頂いている。また、食べることは難しくなっていたが、好きだった「プリン」を口に含ませたり、家族にラジカセを持って来ていただき好きだった音楽を流して聞いていただいたりしたという。更には、職員はきめ細かく居室に顔出をして利用者に声掛けをしたり、体を起こし外の様子を見ていただいたりするなど、心の籠った看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全利用者様の緊急連絡先の保管場所や関係性についても、職場での共有に努めており、法人全体での緊急連絡先もDrや看護師含め共有に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を通じて、各自の役割や防災意識を高め、災害時に備えている。勤務の兼ね合いで参加できなかった職員へも議事録を閲覧できるようにしている。夜間時の災害時訓練についても今後実施していきたい。	基本的に職員全員参加で月毎にテーマを決め、毎月防災訓練を行っている。日中に行っているが、夜間の火災を想定し、避難訓練では避難経路の確認、利用者を外へ移動しての避難訓練、消火器の位置確認、消火器の使い方訓練、通報訓練等を行い、炊き出し訓練では「ガスバーナー」のセッティングと使用確認も行っている。また、防災会社の参加も得て防災機器の使用点検も同時に行い防災への備えとしている。備蓄については「水」「米」「レトルト食品」「缶詰」等が用意されており、消費期限を確認の上入れ替えをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修など定期的に行い、ご利用者様の尊厳を守る取り組みを行っている。また、新入職員についても、研修を行い、接遇の重要性についても説明を行っている。	利用者との接し方には特に気配りをし、利用者目線に合わせ丁寧な言遣いを心掛けている。そのような中、地域性も考えて、馴れ合いにならないよう意識しつつ親しみを込めて方も交えながら話をすることもある。また、トイレ介助、入浴介助の際には必ずドアは閉めるよう徹底している。呼び掛けは基本的に苗字を「さん」付けでお呼びし、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けをするようにしている。法人として定期的に接遇研修を行い、利用者に気持ち良く生活していただくように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「私の気持ちシート」を活用しながら、ご利用者様の思いや気持ちについて、聞き取りをし、普段の関りの中で、ご利用者様のペースで行動や自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントや専用のシートを利用し、望みを聞き取り、出来る限り、ご利用者様と相談する中で、やりたいことを実現できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全て介助で行うのではなく、着替える服や櫛を通すなど、ご利用者様と話しながら、なるべく興味を持てるような関りを行い、身だしなみを整えられるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや食器の用意、テーブル拭き等を協力して頂いている。食事会などのイベントを開催したり食べたいものを聞いたりして楽しみを感じて頂いている。	一部介助の方が三分の二強、全介助の方が数名という状況である。献立は給食委員会で希望を聞いた際の結果を参考に、法人本部の管理栄養士が立てた1週間分の献立を本部の厨房で調理し、行事の際には一部アレンジをしたりしてホームで盛り付けし提供している。そうした中、正月には「ちらし寿司」「正月料理」「和菓子の3点盛り」などを楽しみ、2月の節分には「ぼた餅」、クリスマスには「ピザ」と「ケーキ」を味わい、誕生日には利用者の希望を聞き、好きな物をお出ししている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事の用意、テーブル拭き等を協力しながら提供している。食事会などのイベントを開催したり食べ物を聞いたりして楽しみを感じて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別で口腔ケアを行い、歯科と変化や現状について報告をし、共有しています。ここに合わせた口腔ケアをご指導いただきながら、事業所内でも共有して努めております。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄の時間に合わせて誘導しています。トイレの場所が分かるように張り紙や導線を作り対応しています。便秘がちな方へは、水分摂取を促し、Drへ相談し内服の調整も行ってあります。	自立している方は若干名で、一部介助の方が三分の二、全介助の方が数名という状況である。排泄表も参考に、本人の訴えも含め、定時の声掛けを行うとともに、一人ひとりの様子を見ながら早めに誘い、気持ち良く過ごしていただくようにしている。排便については3日間ない場合にはコントロールを行い、医師に相談して排便等の対応も取っている。合わせて、お茶を中心に乳製品、ジュース、コーヒー等で1日1,000cc以上の水分摂取を勧め、排便促進に繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方へは、水分摂取や運動を促し、DrやNsへ相談し、内服調整や排便の対応も頂く中で、ご利用者様の不安や苦痛とならないように努めています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴までに体調確認を必ず行っている。入浴剤などを利用したり、ただお風呂に入るのではなく、少しでも楽しみやリラックスできるよう介入している。個々の体調や意向に合わせて入浴できるよう努めています。	一部介助の方が三分の二弱、全介助の方が三分の一という状況である。広い浴室には特殊浴槽と個浴槽が設けられ、利用者の状態に合わせて入浴できるようになっている。基本的に週2回入浴を行っているが、希望で3回入浴される方もいる。入浴拒否の方がいるが、誘い方に工夫をして入浴していただくようにしている。入浴剤を3週頻用意識して希望によって使い分け楽しい入浴に繋げている。また、冬には「ゆず湯」も行い季節を感じていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣に合わせて、ソファーで休息頂いたり、安心して良眠できるよう、常夜灯や廊下の光の調整、TVなど音に配慮しております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し、処方されたお薬の容量用法を理解し、配薬時には数名の職員が確認しながら提供しております。症状の変化や拒薬がある際にも、必ずDrに相談し、指示を頂き対応しております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・折り紙・花紙・模造紙等使い、作品作りをしたり、全利用者職員参加で季節ごとの催し物を行ったりしている。作品の際には、個々に合わせて役割担当し、楽しみになることを支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩したり、季節を感じて頂ける様、ドライブに出かけたり個々の希望に沿った支援が出来ている。	外出時、独歩の方と歩行器使用の方がそれぞれ数名ずつで、車いす使用の方が半数という状況である。天気の良い日にはホームの周りに点在するリンゴ畑を見ながら散歩を楽しんでいる。コロナ禍が続き、外出レクリエーションが制約を受けているが、職員が人出の少ない時間帯、少ない場所を選び、ドライブを兼ねて高森町周辺の桜や紅葉の名所に出掛けて季節を感じている。来年度は感染状況も見ながら計画を立て、季節に合わせて、更に外出を行う予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設的特性上、ご利用者様や御家族様からお金を預かることは行っておりません。必要なものが生じた場合は、必ずご家族様に相談し、支援できるようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望時に、職員が操作などサポートしながら、電話をお掛けすることもあります。同様に、お手紙や葉書についても一緒に読んだりお送り出来るよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の物を作り飾りつけをしたり、ソファでみんな一緒に楽しんだり体を休められるようにしている。その場をご利用者様の居場所として大切に空間作りを行っています。	玄関を入り共用部分に向かうと正面に季節の飾り付けが施されている。現在、利用者が手作りした見事な折り紙の5段飾りの雛人形が飾られ季節が感じられる。十分な広さが確保されたホール兼食堂には数ヶ所に食事テーブルとソファが置かれている。また、大型テレビも置かれ寛ぎのスペースとなっている。壁には利用者の「ぬり絵」「折り紙」などの作品が数多く飾られ活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭園や屋内外にソファを大きい物から一人がけ物を配置し、一人ひとりがゆっくりできたり、活動的に生活できるよう、環境支援をし、職員も関りながら、安心できるよう環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた時計や小物類などなじみのある物をお持ちいただき、心地よい空間作りに努めています。	整理整頓が行き届き清潔感漂う居室にはクローゼットが備え付けられている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、物入れ等が置かれ、壁には自分が作った「折り紙」等の作品が飾られ、家族の写真や好きな人形等にも囲まれて自由な生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の様子を共有しながら、ご利用者様の意向や残存機能を明確にし、リスク面も検討したうえで、一人一人がなるべく快適に生活できるよう、自立支援に努めております。		